



さいたまトリエンナーレ2016 号外ニュース

共につくる、参加する芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」は閉幕まで残り21日。

「さいたまトリエンナーレ2016」の参加作家 小説家の多和田葉子さんがドイツでクライスト賞受賞



ドイツ語での活動が評価される

ドイツで最も権威のある文学賞のひとつ「クライスト賞」（1912年創設）を受賞されたというニュースが飛び込んできました。

先駆的な作品に与えられるクライスト賞、日本人の受賞は初。外国人の受賞は非常に難しく、今回でようやく2度目となります。また、過去にノーベル文学賞を受賞した作家がいるため、ヨーロッパでは注目の賞です。賞の主催者団体によると「ユニークなドイツ語の使い方と新たな表現の可能性を示した」点で評価されたそうです。



18日、ドイツで行われた会見で多和田さんは「ドイツ語という言語はすごく簡単な単語と哲学で使われる単語が同じだったりする。日常的なことを言いながら、哲学的なことを語るができる」と話しています。他言語間に横たわる、可視化されにくい同一性や微妙なズレを表現し、その難しさと奥深さをよくご存知なのが多和田さんだといえるでしょう。そのような多和田さんによる新作インスタレーション作品がここ、さいたま市でご覧になれます。

出品作品は最新作3点、会期中の鑑賞のみ！

「さいたまトリエンナーレ2016」では、多和田さんによる、「サイトスペシフィックな”文学インスタレーション”作品が3点発表されています。

《白熊の部屋》《さわれる文字の部屋》《L字の部屋》、すべて多和田さんの新作。自身初の挑戦となるインスタレーション作品がご覧頂けるのも会期終了までのあとわずか。この機会にぜひ、多和田さんの文学芸術世界をご堪能ください！

会場：岩槻・旧民俗文化センター

鑑賞時間：10:00-18:00

<http://saitamatriennale.jp>



11月6日に行われた朗読パフォーマンスの様子

参加アーティスト一覧

秋山さやか (日本)	アイガルス・ビクシェ (ラトビア)	チェ・ジョンファ (韓国)
藤城光 (日本)	ダニエル・グェティン (スイス)	日比野克彦 (日本)
ホームベース・プロジェクト (NYC、ベルリン、エルサレム、さいたま) ※出身地ではなく開催地	磯辺行久 (日本)	日本相撲聞芸術作曲家協議会 JACSHA (鶴見幸代、野村誠、縦山智子) (日本)
川埜龍三 (日本)	オクイ・ララ (マレーシア)	ロングフィルム・シアター (日本)
アダム・マジヤール (ハンガリー)	松田正隆+遠藤幹大+三上亮 (日本)	目 (日本)
向井山朋子 (日本)	長島確+やじるしのチーム (日本)	新しい骨董 (山下陽光、下道基行、影山裕樹) (日本)
西尾美也 (日本)	野口里佳 (日本)	岡田利規 (日本)
大洲大作 (日本)	大友良英+Asian Music Network (日本)	小沢剛 (日本)
ウイスット・ポンニミット (タイ)	ソ・ミンジョン (韓国)	サイタマ・ミューズ・フォーラム SMF (Saitama Muse Forum) (日本)
ダンカン・スピークマン+ サラ・アンダーソン (イギリス)	鈴木桃子 (日本)	高田安規子+政子 (日本)
多和田葉子 (日本)	マテイ・アンドラシュ・ ヴォグリンチッチ (スロヴェニア)	アピチャップン・ ウィーラセタクン (タイ)
ユン・ハンソル (韓国)		

* 10カ国より34アーティストが参加/48アートプロジェクトの展示

【さいたまトリエンナーレ2016開催概要】

テーマ「未来の発見！」

127万もの人々が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだそうとする国際芸術祭。テーマは「未来の発見！」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。土地の歴史やまちの構造を想起させる、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちの多様で多彩な想像力に触発されて、私たちはさまざまな未来を夢見ていく。日本を代表する生活都市から生まれる、想像力の祭典をお楽しみください。

さいたまトリエンナーレ2016 ディレクター 芹沢高志

会期： 2016年9月24日（土）～12月11日（日）[79日間]
※定休日=水曜（ただし11/23（水・祝）は開場、翌11/24（木）は休み）

主な開催エリア： 与野本町駅～大宮駅周辺
武蔵浦和駅～中浦和駅周辺
岩槻駅周辺

主催： さいたまトリエンナーレ実行委員会

ディレクター： 芹沢高志（P3 art and environment統括ディレクター）

各種記者発表資料は、
さいたまトリエンナーレ2016公式WEBサイト内の
「[プレス向け](#)」よりダウンロードいただけます。

■お問合せ先■

さいたまトリエンナーレ2016 広報担当（大久保・西山・河西・鈴木・森田）

〒330-0063 浦和区高砂2-8-9ナカギンザビル さいたまアートステーション

tel 048-711-8390（月～金11:00-18:00） / fax 048-824-5361

press@saitamatriennale.jp